

第2章

第1回～第3回 研究会の報告



平成15年度「国別NGO研究会(スリランカ)」事業では、平成15年9月～11月にかけて、スリランカに関する第一線の研究者やスリランカ駐在経験者等を招いて、国内での研究会を3回開催した。以下、その概要を記す(各研究会の詳細な内容については、付属資料1～3を参照のこと)。

第1回研究会

日時：平成15年9月25日 15:00～

会場：アジア太平洋資料センター
2階会議室

講師：中村尚司先生

龍谷大学社会科学研究所教授

テーマ：スリランカ和平の現状ならびに見通しと日本の対応、とりわけNGOの役割

参加者：外務省、国際協力銀行、国際協力事業団、スリランカで事業を実施・計画しているNGO等より多数

第1回研究会では、まず、スリランカ復興開発NGOネットワーク及び「国別NGO研究会(スリランカ)」の事務局を務めるブリッジ エーシア ジャパンの新石事務局長より、スリランカ復興開発NGOネットワーク設立の経緯や「国別NGO研究会(スリランカ)」事業が同ネットワークによって実施されることとなった背景、この事業の主な内容などについて説明がなされた。

次に、外務省経済協力局民間援助支援室の中野首席事務官より、「国別NGO研究会(スリランカ)」がNGO活動環境整備支援事業の一環として開始された経緯、スリランカが初年度の対象国として選ばれた理由等について説明があった。また、日本のNGOがスリランカで効果的なプロジェクトを実施していくためのステップとしてこの研究会が活用され

ることへの期待が表明された。

その後、龍谷大学の中村教授による講義が行われた。講義の中では、スリランカの歴史的条件、社会構造、金融市場、政治・経済状況、現地NGOの特徴、近隣国との関係、女性の地位、言語、宗教、停戦後への展望、様々なアクターによる平和構築・復興開発の取り組み、日本の援助の課題など、幅広いトピックが体系的に網羅され、研究会出席者は、スリランカの全体像について認識を深めることができた。また、そうした状況の下、日本のNGOはどのような活動を今後スリランカで展開していくべきかを広い視野から考察することができた。

さらに、質疑応答・意見交換のセッションにおいては、中村教授、外務省アジア大洋州局南西アジア課、国際協力銀行開発第2部第3班、国際協力事業団アジア第二部 南西アジア・大洋州課、NGOからの出席者の間で活発に意見や情報の交換を行い、ODAとNGOとの連携・協力を深化させる方策について考えることもできた。こうしたことから、この第1回研究会では、「国別NGO研究会(スリランカ)」事業を進めて行く上での基盤が固められたと言える。

第2回研究会

日時：平成15年10月31日 15:00～

会場：独立行政法人

国際協力機構(JICA) 11階会議室

講師：足羽與志子先生

一橋大学大学院社会学研究科教授

テーマ：スリランカで異民族間の融和を進めるために日本のNGOがなすべきこと

参加者：外務省、国際協力銀行、国際協力事業団、スリランカで事業を実施・計画しているNGO等より多数

10月の第2回研究会では、冒頭でブリッジ エーシア ジャパンの新石事務局長より、スリランカ復興開発NGOネットワークを設置するに至った経緯、外務省主催の「国別NGO研究会(スリランカ)」事業の背景、第2回研究会の進行等についての説明、足羽教授の略歴の紹介が行われた。

足羽教授の講義では、スリランカを見つめる視座、スリランカの文化システムと民族対立の相関関係、異文化や他者への感受性、日本のNGOがスリランカで活動する上で必要となる姿勢などについての話がなされた。このことにより、研究会の出席者は、スリランカで復興開発支援を行っていくなかで忘れられてはならない視点や、異民族間の融和を促進していくための手がかりを数多く得ることができた。

また、足羽教授からは、平成15年にスリランカ北部のジャフナで実施された住民の意識調査の結果が包括的に報告され、出席者は、激しい民族紛争の影響を受けた地域の住民がどのような意識を持って生活を続けているかを非常に明確に把握することができた。これは、日本のNGOがこうした地域で住民のニーズに的確に対応して支援事業を実施していく上で大いに役立つと考えられる。

この研究会においても、NGOだけでなく、外務省、国際協力銀行、国際協力機構から出席者を得ることができ、スリランカ復興開発支援の関係者間での交流を深めることができた。

第3回研究会

日 時：平成15年11月28日 14:00～

会 場：ワールド・ビジョン・ジャパン

2階会議室

パネラー：今里いさ氏 (株)エム アンド ワイ
コンサルタント

田附範雄氏 日本貿易振興機構(ジェトロ)盛岡貿易情報センター所長
新石正弘 ブリッジ エーシア ジャパン 事務局長

大津祐嗣 ブリッジ エーシア ジャパン スリランカ事業担当

テーマ：今後の復興開発支援における日本の民間セクターの連携・協力の可能性

参加者：外務省、スリランカで事業を実施・計画しているNGO等より多数

第3回研究会では、初めに、ブリッジ エーシア ジャパンの新石事務局長が、「国別NGO研究会(スリランカ)」事業開始の経緯、第3回研究会の趣旨、本事業の今後の計画などについて説明を行った。

この研究会では、スリランカで事業を行う民間の各アクターの間での相互協力の可能性を模索することを目的に、スリランカでの事業実施経験の豊富な開発コンサルタント企業、M&Yコンサルタントの今里氏と、コロンボ駐在経験を持つ日本貿易振興機構(ジェトロ)盛岡貿易情報センターの田附氏をパネラーとして招いた。今里氏、田附氏からは、スリランカでの生活や業務の中で得られた経験、開発支援事業実施において重視されるべき姿勢、日本企業の活動状況等についての話がなされ、NGO側からも、複数の団体が現地での活動における困難、開発コンサルタントや民間企業との協力の可能性等について意見を述べ、建設的な意見交換がなされた。

